

JAMA NEWS NO. 55

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター (株)国際文献社内 日本管理会計学会事務局

2023年度年次全国大会記

北海学園大学 関谷 浩行

日本管理会計学会2023年度年次全国大会（委員長：東北工業大学 川島和浩氏）が、2023年8月28日（月）から30日（水）までの3日間にわたって、東北工業大学八木山キャンパスにて対面形式で開催された。参加者は約200名であり、大会期間中は活発な交流が図られた。

◎ 大会1日目

28日は、常務理事会、理事会および各種委員会が開催された。

◎ 大会2日目

29日は午前5会場計20題の自由論題報告が行われた。午後は、会員総会、特別講演、スタディ・グループ中間報告、統一論題報告、会員懇親会が開催された。

昼食後に行われた会員総会では、大会実行委員長挨拶、会長挨拶のあと、審議事項として、昨年度の事業報告、昨年度の収支決算書（案）、監査報告、今年度の事業計画（案）、今年度の収支予算書（案）等について、審議・承認された。

報告事項として2024年度の年次全国大会は、8月27日から29日の予定で中央大学にて開催されることが報告された。また、会員の異動、スタディ・グループ、産学共同研究グループ、参事への会議参加交通費等の補助、学会誌編集委員会運営規程等の改正、学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性等が報告された。

最後に、学会賞審査報告ならびに表彰式が執り行われた。受賞者は以下のとおりである。

【学会賞】

- ・特別賞：伊藤和憲氏（専修大学）
- ・功績賞：該当なし
- ・論文賞：該当なし
- ・文献賞：坂口順也氏（名古屋大学）『組織間マネジメント・コントロール論：取引関係の構築・維持と管理会計』中央経済社
- ・奨励賞：荻原啓佑氏（早稲田大学）「目標原価の設定方式がコミットメントに与える影響：加算方式から控除方式への変更」『管理会計学』第31巻第1号、55～70ページ

特別講演では、谷守正行氏（専修大学）の司会のもと、七十七ヒューマンデザイン株式会社代表取締役の庄司大志氏が「地域金融機関が見た中小企業の軌跡：震災、コロナ、その先へ」というテーマで、経営（改善）計画と管理会計の重要性について講演された。

七十七ヒューマンデザイン株式会社は2022年8月、七十七銀行が100%出資して設立された組織である。同社は

Mission（使命）「人を活かす。地域を描く。」、Vision（目指すべき姿）「CONNECT～人と企業をつなぎ、地域を未来へつなぐ～」のもと、有料職業紹介事業、セミナーの開催等を主な事業としている。なお、同社の母体である七十七銀行の設立には、渋沢栄一氏の多大なる支援があった。

庄司氏は2018年9月から3年間、東日本大震災で大きな被害を受けた七十七銀行女川支店の支店長を勤めた。震災前の女川町の人口は10,016名（2011年2月末）であったが、震災後は5,946名（2023年5月末）で40.6%減少した。震災時のエピソードの一つに、「2件/195千円」という数字がある。震災の翌日から七十七銀行では、預金の引き出し業務を手作業で再開させ、預金者の口座残高に関係なく一人10万円を上限に現金の引き出しを行った。後日、口座の残高不足によって返済を求めるケースが多数発生したが、最終的に回収できなかった件数・金額が先に示した「2件/195千円」である。庄司氏は預金者と銀行との信頼関係の高さを改めて感じたという。

東日本大震災の復興が完了する頃に発生したのが新型コロナウイルスのパンデミックである。金融機関は業績が悪化した顧客に何ができるか。ここで重要なものが、経営（改善）計画である。企業の経営理念がいかに素晴らしくても、社長が人格者であっても、経営（改善）計画がないと金融機関本部の稟議は通りづらい。

経営（改善）計画を立案することで、融資を受ける企業は、①自社の立ち位置がわかる、②従業員からの協力を得やすくなる、③振り返りを行うことができ、将来の経営に活かせる。また、④社外的には金融機関からの信頼度が高まるというメリットがある。一方、融資をする金融機関としては、顧客への理解度が深まり、金融支援が可能になるというメリットがある。経営（改善）計画は、社内・社外・金融機関間の合意形成を行うことを可能にする。

金融機関が経営（改善）計画を見る際のポイントは、①実現可能性（外部環境を適切に把握しているか、改善施策は具体的か）、②債務者区分（ランクアップまたは維持が可能か）、③公平性（ステークホルダー間の公平性は担保されているか）、④責任論（債務者、企業、経営者）であるという。

女川町の地域企業の取り組み事例として「株式会社鮮冷」が紹介された。鮮冷は2013年3月に設立された鮮魚販売・水産食料品製造の企業で、まちぐるみ、パートナーぐるみで水産業の6次産業化を目指している。鮮冷はサンマを中心に鮮魚の冷凍冷蔵事業を行っていた「株式会社 石森商店」とホタテを中心に鮮魚販売・加工事業を行っていた「株式会社 岡清」が合併して設立され

た。

鮮冷はバリューチェーンの考え方を適用させ、女川町の強みを活かした売上計画を立案して実践している。同社の長所は魚介の細胞を壊さずに凍結することを可能とした先進の凍結技術であるCAS (Cells Alive System) を実践していること。また、海外への販路獲得を視野に入れて、消費者に安全な食品を提供することを目的とした食品安全マネジメントシステム規格のFSSC22000を取得していることにある。

鮮冷は縦軸に商流（スーパー、コンビニ、業務用卸）、横軸に商材（サンマ、ホタテ、フカヒレ、加工品）のマトリックスを作成し、新型コロナウイルスの影響によってダメージが深いのはどのマス目かということ把握・分析することができた。これもひとえに、バリューチェーンにもとづく経営（改善）計画を立案していたため、次の一手を打てる経営管理体制が構築できていたからである。

今後、日本は人口減少によって限られた労働力を最大限に利用する必要がある。パイが広がる前提のビジネスモデルから、パイが狭くなる前提のビジネスモデルへ転換するためには、これまでと同じ商売の仕方では対応することが難しい。最後に、庄司氏は不確実な状況に対応するため、企業は経営（改善）計画を持つことに加え、管理会計をしっかりと構築していくことが求められると主張された。

特別講演後、スタディ・グループの中間報告として、「クライシス時のマネジメント・コントロール：コロナ禍で管理会計はどのような役割を果たしたのか」（研究代表者：神戸大学大学院 三矢裕氏）および「経営者報酬を利用した経営者の業績評価に関する理論的・実証的研究」（研究代表者：桃山学院大学 濱村純平氏）の2件の報告が行われた。

その後、統一論題報告が行われた。今年度の統一論題のテーマは、「中小企業管理会計の現状と課題」（座長：青山学院大学 山口直也氏）である。まず、座長の山口氏から解題がなされた。

中小企業が直面する経営課題には、①事業基盤の安定性確保、②後継者の安定的確保、③従業員の安定的確保と従業員のパフォーマンス向上、④物価上昇への対応などがある。これらの経営課題に対処し、競争力を向上させるためには、管理会計の活用が極めて重要になる。そして、中小企業における管理会計の現状と課題について理解を深めること、研究者や実務家が、中小企業における効果的な管理会計の活用を推進するための検討を統一

論題の狙いとし、討論していくことが提起された。

第1報告は、牧野功樹氏（拓殖大学）から「中小企業における管理会計導入による経済的帰結」として、中小企業は多義的な概念である（中小企業、スタートアップ、ファミリービジネスなどを区別することは難しい）ため、対象とする中小企業の特徴（人材の制約、コスト制約、組織構造、原初的な組織）によって管理会計に与える影響を踏まえた管理会計研究の必要性が報告された。

第2報告は、飛田努氏（福岡大学）から「中小企業経営者のアントレプレナーシップを奨励する経営管理システムのデザイン試論」として、中小企業の組織成員が組織目標の実現に向けて動機づけられ、行動し、目標を実現するために必要とする情報を提供できるシステムをどうデザインするかとの問題意識のもと、経営者が中長期的な事業の見通しを立てるのに有用なマネジメント・コントロール・システム（MCS）の機能を検証して修正できるデザインの試論が報告された。

第3報告は、本橋正美氏（明治大学）から「中小企業管理会計の適用基準」として、はじめに売上高基準にもとづいた中小企業と中堅企業の区分方法（売上高が50億円より高ければ中堅企業、低ければ中小企業）が主張された。また、中小企業管理会計の適用基準としては、①TQM/マーケティング管理会計・情報分析アプローチ、②健康経営アプローチ、③SDGsアプローチの3つのアプローチが提案された。

大会2日目の最後に会員懇親会が4号館地下1階食堂にて開催され、仙台名物の牛タン、ホヤ貝、日本酒などが振る舞われた。

◎ 大会3日目

午前中に5会場で18題の自由論題報告が行われた。午後はスタディ・グループの最終報告として、「多様化するマネジメント・コントロールの現状整理と展望」（研究代表者：慶應義塾大学 横田絵理氏）ならびに産学共同研究グループの最終報告として、「サブスクリプションビジネスのモデル化とその評価に関する研究」（研究代表者：専修大学 青木章通氏）の報告が行われた。

その後、統一論題討論が行われた。討論では、座長の山口直也氏（青山学院大学）のコーディネートのもとで、3名の報告者と参加者との活発な質疑応答が行われた。さまざまな視点から中小企業管理会計の現状と課題について白熱した議論が行われ、盛況のうちに2023年度年次全国大会が終了した。

2024年度年次全国大会 開催ご挨拶

大会実行委員長 中央大学 渡辺 岳夫

日本管理会計学会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、2024年度年次全国大会が、9月2日（月）～9月4日（水）の日程で、中央大学茗荷谷キャンパス（東京都文京区大塚1丁目4-1）において開催されることにな

りました。約3年余りに渡り吹き荒れましたコロナ禍がほぼ収束していることを勘案し、以下にご案内の「日本管理会計学会2024年度年次全国大会スケジュール予定」にもとづき、対面形式による大会開催で準備を進めております。なお、開催会場の茗荷谷キャンパスは、2023年3月

に新設された中央大学の都心キャンパスの一つでございます。会員の皆様に快適にお過ごしいただければ幸いです。

統一論題のテーマは、「AI時代の会計教育と管理会計実務」です。また、スタディ・グループ報告および産学共同研究グループ報告が予定されております。

今大会の特別講演会といたしまして、元リクルート執行役員・前Jリーグチェアマン・現日本バドミントン協会

会長の村井満氏の講演開催が決定しております。

自由論題の募集につきましては、2024年2月に会員各位にご案内し、詳細の大会プログラムは7月中旬に郵送させていただきます予定です。

大会準備委員会一同、万全の準備を進める所存でございます。多くの会員の皆様のご参加を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

日本管理会計学会2024年度年次全国大会スケジュール予定 会場：中央大学茗荷谷キャンパス

【大会1日目】

9月2日（月）

- 14:00～15:20 常務理事会
15:30～16:50 理事会
17:00～18:00 各種委員会

【大会2日目】

9月3日（火）

- 9:00～17:00 受付
9:30～10:35 自由論題報告（1）：報告25分、質疑5分 ※6会場 最大12報告
10:45～11:50 自由論題報告（2）：報告25分、質疑5分 ※6会場 最大12報告
11:50～12:40 昼食休憩
12:40～13:50 会員総会
14:00～15:10 特別講演会
ご講演者：村井満氏（元リクルート執行役員・前Jリーグチェアマン・現日本バドミントン協会会長）
「先の見えない時代をどう生きるかー透明性を高める天日干し経営ー」
15:20～16:35 スタディ・グループ中間報告および産学共同研究グループ中間報告 報告25分、質疑10分
第1報告：スタディ・グループ中間報告：研究代表者 吉岡勉先生（東洋大学）
「生産性を向上するサステナブル・プロフィット・マネジメント」
第2報告：産学共同研究グループ中間報告：研究代表者 大西淳也先生（東京大学大学院）
「ワイズ・ガバナンス。ー行政管理会計等の新展開ー」
16:45～18:25 統一論題報告 解題10分、報告30分
統一論題テーマ「AI時代の会計教育と管理会計実務」
ご登壇者：潮清孝先生（中央大学）座長
第1報告：林尚史先生（ソニーグループ株式会社 経理企画推進部統括部長）
「ソニー経理におけるDX活用の事例と挑戦」
第2報告：上野雄史先生（静岡県立大学）
「AI・DX時代における会計データサイエンス教育：その必要性と課題」
第3報告：堀井悟志先生（立命館大学）
「日本企業におけるデジタル技術の活用と管理会計の変化」
18:40～20:00 懇親会（予定）

【大会3日目】

9月4日（水）

- 9:00～11:30 受付
9:30～10:35 自由論題報告（3）：報告25分、質疑5分 ※5会場 最大10報告
10:45～11:50 自由論題報告（4）：報告25分、質疑5分 ※5会場 最大10報告
11:50～12:40 昼食休憩
12:40～13:55 スタディ・グループ最終報告 報告25分、質疑10分
第1報告：研究代表者 三矢 裕先生（神戸大学大学院）
「クライシス時のマネジメント・コントロールーコロナ禍で管理会計はどのような役割を果たしたのかー」
第2報告：研究代表者 濱村純平先生（桃山学院大学）
「経営者報酬を利用した経営者の業績評価に関する理論的・実証的研究」
14:05～15:25 統一論題討論 座長：潮清孝先生、統一論題ご報告者3名
15:30 大会日程終了

学会誌関連規程の改正のポイント

編集委員長 慶應義塾大学 園田 智昭

学会がこれまで会員に提供してきたサービスレベルを極力下げない配慮をしつつ、研究報告の機会を拡充し学会誌をより充実する一方で、査読期間を短縮するなど編集委員の業務の負担と査読をご担当いただく先生の負担を軽減するために、「学会誌編集委員会運営規程」およ

び「学会誌投稿規程」について①～⑤に関する改正を、さらに関連事項として⑥について改正をいたしました。これらの改正は、2023年度第3回常務理事会において承認され、2023年度会員総会において報告されました。

① 編集委員長の重任禁止について（「学会誌編集委員会運営規程」第2条第2項）

編集委員長および編集副委員長の任期は3年ですが、編集委員長については、その後に重任することはできないこととします。

② 審査打ち切りの判断について（「学会誌編集委員会運営規程」第10条第2項e.）

投稿論文の第2回目の評点は、A, B, Fのいずれかとします。ただし、査読者より評点Cをつける強い要望があり編集委員長が特別に認める場合には、第3回目の審査を行うことができます。

③ 学会員ではない投稿者への対応について（「学会誌投稿規程」第2条第2項）

依頼原稿については、掲載された『管理会計学』を1冊献本します。非会員が共著者の投稿論文等については、共著者の非会員には献本せず、必要な場合には購入してもらうこととします。

④ 投稿論文の受付について

1. 滞納解消の必要性（「学会誌投稿規程」第2条第3項, 第4項）

学会員ではない共著者を除き、新規の投稿の前に学会費の滞納を解消する必要があります。また、論文が受理された場合は、学会員ではない共著者を除き、掲載前の12月15日までに学会費の滞納を解消する必要があります。

2. 研究報告の必要性（「学会誌投稿規程」第3条第3項）

投稿論文等の内容については、日本管理会計学会の全国大会、地方部会、フォーラム、リサーチセミナー、企業研究会のいずれかで報告している必要があります。

⑤ 過去に取り下げまたはリジェクトされた論文の再投稿について（「学会誌投稿規程」第4条第4項）

過去に投稿者が取り下げた投稿論文、または拒否された投稿論文を再度投稿する場合は、申込時にその旨および以前の投稿論文からの変更点を明記した書類を合わせて提出し、その内容を編集委員会が審査したうえで新規投稿論文として受け付けるかを決定します。

⑥ 既発行の『管理会計学』の保存期間について

保存期間を2年間とします。

学会業務日誌

2023年4月15(土)

▼第1回常務理事会開催(明治大学)

▼第1回理事会開催(明治大学)

- ◆ 参事の選任, 副会長の選任, 理事会の議決による常務理事の選任, 顧問の選任が承認されました。
- ◆ 2022年度の事業報告が承認されました。
- ◆ 2023年度の方針および事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 学会賞審査委員の選任が承認されました。
- ◆ 業務分担および役員を選任が承認されました。
- ◆ 入会7名(正会員4名・準会員3名), 会員種別変更1名(正会員から特別会員1名), 退会7名(正会員7名)が承認されました。
- ◆ 産学共同研究グループの会計報告が承認されました。
- ◆ 例年は「みなし理事会」で行われる常務理事の選任が, 2022年11月より電子システムで選任が行われるようになったことにより, みなし理事会での重要決議事項がなくなったため, 特例で本会議を「みなし理事会」とする提案があり, 承認されました。
- ◆ 「予算の内規設定」の記載変更案が承認されました。
- ◆ 「学会誌編集委員会運営規定第10条2c」の改正案が承認されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告がありました。
- ◆ 2023年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 2023年度第2回国際学会参加費の助成について報告がありました。
- ◆ 2023年度スタディ・グループの公募について報告がありました。
- ◆ 学会賞候補者の募集について報告がありました。

2023年7月29(土)

▼第2回常務理事会開催(愛知学院大学)

- ◆ 2022年度の収支決算書(案)および監査報告が承認されました。
- ◆ 2023年度事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 2023年度収支予算(案)が承認されました。
- ◆ 学会賞(特別賞・功績賞)について承認されました。
- ◆ スタディ・グループ申請書が承認されました。
- ◆ 参事への会議参加交通費補助が承認されました。
- ◆ 非会員のフォーラム等への参加についての付則の追加が承認されました。
- ◆ 学会誌編集委員会運営規程等の改正について提案がなされ, 論点を整理し第3回の常務理事会において再度議論をすることとなりました。
- ◆ 非会員の講演者への『管理会計学』の贈呈が承認されました。
- ◆ 入会7名(正会員5名・準会員2名), 会員種別変更1名(準会員から正会員1名), 退会11名(正会員7名・準会員1名・特別会員2名・賛助会員1名)が承認されました。
- ◆ 2023年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。

- ◆ 2024年度年次全国大会の開催校について報告がありました。
- ◆ 地方部会, 企業研究会の活動状況について報告がありました。
- ◆ フォーラム, リサーチセミナーの活動状況について報告がありました。
- ◆ 2023・2024年度産学共同研究グループについて報告がありました。
- ◆ 管理会計の日の創設について報告がありました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性について報告がありました。

2023年8月28(月)

▼第3回常務理事会開催(東北工業大学)

▼第2回理事会開催(東北工業大学)

- ◆ 2023年度会員総会次第が承認されました。
- ◆ 2022年度収支決算書(案)および監査報告書が, 第2回常務理事会からの修正点が報告された後, 承認されました。
- ◆ 2023年度事業計画(案)が, 第2回常務理事会以降の修正点について説明された後, 承認されました。
- ◆ 2023年度収支予算書(案)が, 変更点が説明された後, 承認されました。
- ◆ 学会賞(論文賞・文献賞・奨励賞)について承認されました。
- ◆ 学会誌編集委員会運営規程等の改正について, 編集委員長重任禁止, 審査打切り, 非会員投稿者対応, 投稿論文受付, 再投稿, 受付休止期間, 既発行誌の保存期間の取り扱い等について承認されました。
- ◆ 入会1名(準会員1名), 退会10名(正会員8名・準会員2名)が承認されました。
- ◆ 2023年度第2回国際会議参加経費の助成について申請がない旨が報告され, 承認されました。
- ◆ 2023年度年次全国大会の準備状況について報告がありました。
- ◆ 2024年度第1回国際会議参加経費の助成の公募開始について報告がありました。
- ◆ 地方部会, 企業研究会の活動状況について報告がありました。
- ◆ フォーラム, リサーチセミナーの活動状況について報告がありました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性について報告がありました。

2023年11月25(土)

▼第4回常務理事会開催(鹿児島国際大学)

- ◆ 会則の付則の改正について承認されました。
- ◆ スタディ・グループ研究規程の改正, 産学共同研究グループ規程の改正について承認されました。
- ◆ 学会賞規程の改正について承認されました。
- ◆ スタディ・グループ研究の会計報告, 産学共同研究グループの会計報告について承認されました。
- ◆ 入会4名(正会員1名・準会員3名), 会員種別変更1名(準会員から正会員1名), 退会3名(正会

- ◆ 員3名)が承認されました。
- ◆ 地方部会、企業研究会の活動状況について報告がありました。
- ◆ フォーラム、リサーチセミナーの活動状況について
- ◆ 報告がありました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況と今後の方向性について報告がありました。

会員数の推移

- 第1回常務理事会(2023.4.15)：入会7名(正会員4名・準会員3名)、会員種別変更1名(正会員から特別会員1名)、退会7名(正会員7名)、会員現員数は693会員(正会員:605名、準会員:67名、賛助会員:8社、特別会員:13名)
- 第2回常務理事会(2023.7.29)：入会7名(正会員5名・準会員2名)、会員種別変更1名(準会員から正会員1名)、退会11名(正会員7名・準会員1名・特別会員2名・賛助会員1名)、会員現員数は689会員(正会員:604名、準会員:67名、賛助会員:7社、特別会員:11名)
- 第3回常務理事会(2023.8.28)：入会1名(準会員1名)、会員種別変更0名、退会10名(正会員8名・準会員2名)、会員現員数は680会員(正会員:596名、準会員:66名、賛助会員:7社、特別会員:11名)
- 第4回常務理事会(2023.11.25)：入会4名(正会員1名・準会員3名)、会員種別変更1名(準会員から正会員1名)、退会3名(正会員3名)、会員現員数は681会員(正会員:595名、準会員:68名、賛助会員:7社、特別会員:11名)

事務局からのお知らせ

○フォーラムやリサーチセミナーの案内等、会員宛の連絡にeメールを活用しています。メールアドレスを未登録の方は、学会ホームページよりご変更ください。また、すでに登録されている方で、案内等が届かない、あるいは、メールアドレスに変更があった場合には、速やかに学会事務局までご連絡ください。

日本管理会計学会広報 責任者：内山 哲彦
メンバー：奥 倫陽, 原 慎之介
発行機関：日本管理会計学会
《本部事務局》 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター (株)国際文献社内
日本管理会計学会 事務局
【ホームページURL】 <https://sitejama.jp/>
【E-mail】 jama-post@bunken.co.jp
【TEL】 03-6824-9371 【FAX】 03-5227-8631
【Facebook】 <https://www.facebook.com/sitejama/>